

東京都緩和ケア地域移行モデル事業の実施状況

※R2.10～R3.9実績集計分

資料 2

項目	浅草寺病院（区中央部）	越川病院（区西部）
病床数	120床	46床
うち一般病床数	60床	12床
緩和ケア病棟病床数	0床	34床
一般病床のうち、緩和ケアを提供するために確保した病床数	5床	12床
モデル事業実施体制	医師1名、看護師5名、薬剤師4名、医療ソーシャルワーカー等3名（いずれも兼任）	医師8名、看護師2名、薬剤師2名、医療ソーシャルワーカー等2名（いずれも専任）
緩和ケアを提供する外来がん患者数	3人	592人
うち在宅へつないだ件数	3人	33人
新入院がん患者数	84人	457人
うち在宅へつないだ件数	39人	93人
紹介元の病院からがん患者を受け入れるために参加したカンファレンス	0件 ※受入時に院内の多職種カンファレンスを実施	0件 ※入棟相談外来が同じ役割を果たしているため
退院前カンファレンス	26件	88回
在宅移行に向けた訓練の実施件数	17件	54件
緊急入院体制	24時間体制（夜間の検査不可）	24時間体制
緊急時対応を実施した件数	5件	121件
レスパイトケアを実施した件数	3件	6件

緩和ケアを実施する職員の専門性と診療体制

- 越川病院では、医師や看護師など専門性の高い職員が専任配置されており、専門的緩和ケアの実践のみならず、患者受入れ、在宅移行支援、職員教育等、様々な場面でリーダーシップを発揮し、高い取組実績を挙げている。
 - 浅草寺病院では、緩和ケアの専門性を有する職員が少なく、今回院内の体制整備から着手したが、緩和ケアに対応する病院としての認知度が低く、また中には対応可能ながん治療や緩和ケアに限りがあるために患者受入を断念したケースもあるなど、紹介患者や取組実績が伸びなかった。
- 患者が住み慣れた地域で緩和ケアを受けられるように、地域の中小病院は、緩和ケア研修を受講した職員や専門人材等を整えるほか、必要に応じて他院連携を行うことが必要。

多職種連携による入退院支援

- いずれの病院も、多職種が連携して患者や治療の情報共有に取り組んでいた。特に退院時には、多くの患者について、在宅関係者も含めたカンファレンス（対面実施）を開催し、スムーズな在宅移行をサポートしていた。
- 医師・看護師・MSW等の多職種による入退院時カンファレンス等を実施することで、効果的に患者情報が共有され、スムーズな入院受入、退院支援が可能となる。

他医療機関等との連携構築

○今回のモデル事業での患者の紹介元の病院は、元々患者の行き来など連携のあった病院が中心で、新規の連携構築には至っていない。特に浅草寺病院は、近隣医療機関への挨拶回りなどを行ったが、紹介患者の増には繋がらなかった。

→**連携体制の新規構築・安定的な連携体制構築は、地域の医療機関単独では困難。拠点病院等が患者紹介などを行うには、地域の中小病院のがん治療や緩和ケア等の取組状況について情報が必要。**

今後の取組の方向性

○がん患者が住み慣れた地域において緩和ケアを受けられることを目標とすることから、全都的拡がりをもった汎用性の高い取組とする必要がある。

○そこで、**都内における地域の中小病院等に対して実態調査を行い**、現状として、どのような病院がどの程度の緩和ケアを行っているのか、また在宅移行のための取り組みを行っているのか、等を把握することで、医療機関に必要な機能の精査を行いたい。

○また、**こうした機能を担う地域の中小病院に対する必要な支援について**、併せて検討を行いたい。